

した。然るに六月謀泄れて公宗は誅に伏し、七月時行は信濃に起つて一たび鎌倉の直義を追ひ之に據つたが、翌月尊氏の來攻するに及んで敗退した。所謂中先代の亂これである。同月時兼は、その父時有が嘗て越中の守護であつた縁故を憑み、同國に潛入して與黨を集めたので、國司中院中将定清之と戰を交へた。この際大和の住人高間大貳房行秀の下つて定清を援けたことは、珠洲郡鶴岡妙嚴寺文書に見える。既にして時兼は京師に出でんと欲し、加賀に轉じて敷地(狩野)氏等の據つた大聖寺城を圍んだが、越前の勢の來つて城兵に力を併すに及び敗死し、北條氏再舉の計畫全く水泡に歸した。

ナゴヤクラウド 那古屋藏人 寛永三年前田利常に召出され、三千石を賜ひ、次いで富山侯の分封する時之に隨從したが、後更に歸參した。二代隼人、父遺知の内二千石を受け、三代千松は後に右門と改め、亦二千石を襲ぎ、寶永元年歿。元祿六年の土帳に『那古屋宇門淺野町』と見える。那古屋氏は子孫名越に改めた。

ナゴヤヨシトミ 那古屋良富 大聖寺藩士。通稱平太郎・一學。延享二年家督を續ぎ、祿七十石を受け、土藏奉行・郡奉行・算用場奉行に任じた。良富學を大幸良富に受け、詩文を能くし、明和七年十一月四十歳を以て歿した。那古屋先生文集一卷がある。

ナシカサヤマ 梨笠山 石川郡鶴來の東に在つて、金澤を去る十六軒餘。其の南を梨谷と稱し石材多く、慶長中前田利長の金澤城壘を修した時、戸室石と共にこゝからも採取した。

ナシタニコヤマ 梨谷小山 羽咋郡堀松庄にある部落。

ナシタニコヤマヤキ 梨谷小山燒 羽咋郡梨谷小山の小学小山なる西性寺が陶窯を築いて製出した土燒で、鹿島郡井田明傳寺も協同出資したもの。天保五年九月火打谷に吳須を發見し、(この發見者を從來寺井の庄三としてゐたが、吳須根元故事には赤繪勇次郎とする。庄三はこの年十九歳だから、後説が事實であらう。)六年閏七月初めて兩寺の經濟を維持する爲製陶に着手したことを藩に届出で、七年十月冥加金の納を申出でゐる。安政元年冬に至つて廢業した。

ナシノキ 梨ノ木 河北郡五ヶ庄に屬する部落。

ナシノキザカ 梨ノ木坂 鳳至郡小又から原の部落に至る間の坂路。

ナシノキジヨウ 梨ノ木城 河北郡梨ノ木に在つた。三州紀聞に、この村持山の内に城跡があり、沖近江守が居たとある。天正四年八月一向一揆の首領が下関刑部卿法眼に宛てた訴狀に、奥近江守政堯のあるのはそれであらう。

ナシノキタウゲ 梨ノ木峠 羽咋郡寶達山の東麓なる野田の部落から、越中氷見郡澤川に向かふ峠。

ナシノキタヒラヤマ 梨ノ木平山 河北郡向山・龍下松根兩部落間の越中國境に在る山。高さ圖上測定二三三米。地質輝石安山岩。

ナジミ 南志見 鳳至郡の舊邑名。承久三年注進の能登國田數目録の鳳至郡中に、『大屋庄之東保三十三町五段、加南志見村定。』と見え、西光寺藏の建久八年六月九日長谷部信連

の寄進狀にも大屋御庄南志見村とあるが、今はその部落名がない。能登志微に、今俗に里・小田屋兩村を稱して南志見といひ、南志見里の上略が里になつたのであらうとの説を述べてゐる。

ナジミウラ 南志見浦 鳳至郡白米から東、名舟・小田屋各部落に互る砂濱をいふ。

ナジミガハ 南志見川 鳳至郡西山に發し西院内川・小田川を併せ、小田屋・里の入合領で海に注ぐ。流程六軒。

ナジミゴウ 男心郷 鳳至郡の古郷名。和名抄の一本にこの郷名を載せる。當に奈自美と訓むべきである。後世亦南志見郷がある。

ナジミゴウ 南志見郷 鳳至郡に屬し、藩政時代では、白米・野田・名舟・尊利地・忍・小田屋・里・渡田・東印内・西院内・東山の十一ヶ村を含んで居た。

ナジミシヨウ 南志見庄 鳳至郡に在つた同郡印内西光寺の長谷部信連寄進狀に、南志見庄田十貫文と見える。

ナジミジヨウ 南志見城 鳳至郡里の山上に在つた。越登賀三州志に、長氏の四代左衛門有連の子四郎といふ者が南志見の地頭であつたことがあり、又地方人は弘治中國士南志見中務大輔が居たと、井口藤彌丞が居たともいふが、並びにその傳を知らぬとある。

ナジミスミヨシジンジヤ 南志見吉神社 鳳至郡里に鎮座する。もと里・小田屋・尊利地・忍・東山五ヶ村の惣社であつた。貞享四年の棟札に『能登國鳳至郡大屋庄南志見里村住吉宮五ヶ村惣社云々。』とある。

ナスビヤマ 茄子山 羽咋郡米出部落の南方にある岡。高さ四六米。地質沖積層。

ナタ 那谷 江沼郡那谷谷に屬する部落。村名を今ナタと呼ぶのはナタニの訛であり、白山記には奈谷と記されてゐる。前田利常が能美郡を隱居領としてゐた頃、江沼郡中でもこの村に限りその領に屬してゐた。

ナタイシ 那谷石 江沼郡那谷に産する石材。石英粗面岩質凝灰岩で、質全く粗面又は粗粒。帶色乃至白色で、質は硬い。

ナタウチ 鈿打 羽咋郡の舊邑名。承久三年注進の能登國田數目録羽咋郡に、『鈿打村、六町五段貳』と見える。今この邑名はないが、藤瀬村の古名であるといふ。又同日録解に、『正字通に鈿俗鉞字、説文に鉞短矛也。これをナタと訓めるは確斷の義なるべし。日本紀に鈿字をよみ、延喜式には鉞、太神宮儀式帳には那太と書けり。字彙に鉞平木器と見え、全浙兵制録には小斧と譯せり。』と記する。

ナダウチクマノジンジヤ 鈿打熊野神社 ↓フデツヒヨジンジヤ 藤津比古神社。

ナタウチゴウ 鈿打郷 羽咋郡に屬し、藤瀬・河内・西谷内・鳥越・古江・大平・町屋・上島・免田の九ヶ村を含んで居た。その内藤瀬の舊名を鈿打というたとあるから、それが本郷であらう。

ナタウチヤマ 鈿打山 羽咋郡町屋領に在つて、一に虫ヶ峠ともいひ、高さ二九六米。能登名跡志に、『鳳至・鹿島羽咋三郡の境山にて、頂に大石あり境とす。』又『鈿打山とて近郷の高山あり。昔俊寛僧都・康頼・成經三人の配所此邊にて、俊寛此山に三十三所の觀音を建て、順禮ありし觀音の堂あり。今も無志々峰とて、當國廿四番の札所也。』とある。俊寛のこの妄誕たるは勿論である。